

## プログラム説明書

団体名	木工教室 癒楽木(ゆらぎ)		
プログラム名	ひのきのお箸づくり		
概要	・香川県の山の話、間伐の話、身近な山の樹木などを、クイズを交えながら問いかけ、その身近な山で間伐された樹木を使って、お守りを作る。		
ねらい	<p>・「命ある樹」から「使うものとしての木」へのつながりを理解する。私たちは日常、暮らしの中で用いている木のものは、樹の命をもらって出来ています。「物を大切に作る心」「身の回りのものへの感謝の気持ち」を体験を通して、感じてほしい。</p> <p>・香川県産ひのきの間伐材を使用することで、山の手入れの大切さを学ぶ。</p> <p>・紙やすりの使い方を学ぶ。木の手触りや匂いを感じながら、作る楽しさを感じてほしい。</p>		
対象者	小・支援学級	人数	20人程度(1クラス)
実施場所	教室・図工室等 室内	実施時間	1時間～1時間半
学校の準備物	新聞紙・プロジェクター・スクリーン(またはモニター) HDMI	実施団体の準備物	材料、PC
安全上の注意事項	特になし		
雨天時の対応	特になし		
アピールポイント	ネットで知ったつもりになっている事でも、実体験として、見る・聴く・触る・匂うなどの五感を使った体験ができる。また、今、自分のこの生活が当たり前でなく、有難いことだと気付ける。		

## プログラムの進め方

### 【導入】約 10 分

①児童に、知っている樹の名前を問いかける。

例) さくら・まつ・みかん・・・。

②次に、木で出来たものを問いかける。

例) 机・椅子・積木・・・。

③樹 → 木 → への変身の流れをお話する。

木を育てて使うという循環(サイクル)を説明。

山で木を切る→山から運ぶ→製材する→製品にする。→山に木を植える。

→木を育てる(間伐)→・・・

④みんなの手元にやってくるまでには、たくさんの人が手をかけていることを伝え、今日、準備している木には、たくさんの人思いがこもっていることを伝える。

みんなの願いを込めて作っていきましょう！



### 【展開】約 30 分～40 分

⑤お箸づくりを始めます。

紙やすりを使って木片のザラザラがツルツルになるまで削ります。途中で匂いを嗅いだり手触りを確認してもらったりする。

紙やすり(100番台→200番台→300番台→400番台)

### 【まとめ・確認・片付け】約 10 分

⑥お箸を作ったの感想を聞く

⑦まとめ

樹が木になるまでにはたくさんの人の手をかけられている。→感謝の気持ち

紙やすりの使い方を学びました。→今日作ったお守りが欠けたりしたら、また、磨くとつるつるになります。→ものを大切にする心。

自分で作って、痛んだら直す。痛んだら捨てるのではなく、直すということを伝える。

